Japanese examined patent publication (Kokoku) No. 44-14834 Publication Date: July 2, 1969

BIBLIOGRAPHIC DATA

TITLE OF INVENTION: WARM-WATER-HEATED CURING APPARATUS

APPLICATION NUMBER: No. 41-57971

APPLICATION DATE: September 3, 1966

INVENTOR: HISATOMI Hiroshi
INVENTOR: TSUCHIYA Kosuke

APPLICANT: SHIMIZU CORPORATION

PARTIAL ENGLISH TRANSLATION

(1) SCOPE OF CLAIM:

1. A warm-water-heated curing apparatus for concrete block in which a plurality of formwork-heating-devices are arranged parallel to each other, in order to simultaneously circulate-and-supply warm-water thereto, in a warm-water circulation path of a warm-water reservoir tank accompanying a boiler and a heat exchanger, characterized in being constructed that the formwork-heating-devices can be alternatively used for both preheating a framework, aggregate or the like, and for heat-curing of concrete.

(2) IN THE SPECIFICATION:

(COLUMN 2, LINES 9-34)

Next, the method of the present invention will be explained by the drawings. 1 is a warm-water reservoir tank of an underground-type. It is of a simple structure in which Styrofoam is attached to an excavated ground wall, and a water tank of vinyl sheet is provided therein. A heat exchanger 2 having an inner heat-radiating coil is provided adjacent thereto along with a boiler 3.

4 is a device for heating a framework having mortar grout poured to a preheated aggregate. Its outer side is covered with a vinyl cover 5. Warm-water is to pass between the framework and the vinyl cover. 6 is a device for heating framework arranged with reinforcing bar and aggregate. 7 is a filter comprised of sand layer. 8 is a tube-path for communicating each of the above parts. The heating device 6 is connected in a parallel manner to the heating device 4 between the warm-water reservoir tank 1 and the filter 7 via the branched tube-path 8'.

Thus, heat-curing of a concrete block is conducted by supplying, to the heating devices 4, 6 via the tube-paths 8, 8', warm-water of the warm-water reservoir tank 1 heated by the heat exchanger 2. Warm water after heating is circulated again to the warm-water reservoir tank 1 through the filter 7. After heat-curing of a predetermined period has completed, the concrete block is taken out from the framework of the heating device 4, and a new reinforcing bar and aggregate is arranged thereto; whereas in the other heating device 6 where the reinforcing bars and aggregate were preheated, mortar grout is poured into the framework. Thus, preheating and heat-curing of concrete is conducted in a manner opposite to the above.

日本国特許庁

62日本分類 22 C 33 印特 許 出 願 公 告 昭44-14834

⑩特 報

金公告 昭和44年(1969)7月 2日

発明の数 1

(全2頁)

図コンクリート版の温水加熱養生装置

21)特 昭41-57971

229 出 昭41(1966)9月3日

⑫発 明 者 久富洋

調布市入間町1の6

同 土谷耕介

東京都世田谷区砧町308

人 清水建設株式会社 勿出 願

東京都中央区宝町2の1の1

代 表 者 吉川清一

代理 人 弁理士 秋元不二三 外1名

図面の簡単な説明

図面は本発明に係る温水加熱養生装置の説明図 15 である。

発明の詳細な説明

本発明は骨材を充塡した型枠とコンクリートを 打込んだ型枠とを予熱及び加熱養生する温水循環 するものである。

しかして、蒸気を熱媒とする加熱養生法の欠点 は、蒸気の取扱いが難しいため循環系路の設定が 困難で簡易な加熱養生プラントに適さないことに あり、現状では加熱後の熱を放出している。

本発明は管路をもつて形成した温水循環系路中 に温水蓄留タンク及び骨材を配装した型枠とコ ンクリートの打込みを完了した型枠の両方を加熱 する装置を連設し、温水蓄留タンクに付設した熱 供給して予熱と養生の両方を行い、加熱後の温水 を再び温水蓄留タンクに循流して熱媒を有効に用 いると共に、コンクリート版の加熱養生時に必要 とする初期温度を確保して養生状態を良好となす。 ものである。-

本発明の装置における特徴は温水蓄留タンクの 連設により蓄熱が容易となることで、比較的小型 のポイラの連続運転により大容量のポイラを断続

運転した場合と同様な熱媒の供給が可能となり、 それにより単位設備投資を節減でき、また1つの 系路において予熱と加熱養生を実施することがで きることから、自己発熱を併用する場合とか加熱 5 時間を短縮する場合、また養生期間を短くする場 合に必要とする初期温度を確保でき、更 に圧力 を注意せねばならない蒸気と異なつて加熱が一定 であることなどにある。

次に本発明の方法を図面により説明する。1は 10 温水蓄留タンクで地下式とし、堀削した土壁にス チロフオームを張設して内部にビニールシートの水 槽を設けた簡単な構造からなり、それに隣位して 内部に放熱コイルを有する熱交換器2がポイラ3 と共に付設してある。

4は予熱した骨材にモルタルグラウトを注入し た型枠を加熱する装置で外側をビニールカバー5 をもつて被覆し、型枠とビニールカバーとの間を 温水が流通するようになつている。6は鉄筋及び 骨材を配装した型枠を加熱する装置、7は砂層よ 系路をもつたコンクリート版の加熱養生装置に関 20 りなるフイルタ、8は上記各部材を連結する管路 で、加熱装置6は温水蓄留タンク1とフイルタ7 との間に分枝した管路8′により加熱装置4と並行 に連結されている。

しかして、コンクリート版の加熱養生は熱交換 25 器 2 により加温された温水蓄留タンク1の温水を 管路 8,8'を経て加熱装置 4,6に供給して行い、 加熱後の温水はフイルタイを通過して再び温水蓄 留タンク1に循流する。そして一定期間の加熱養 生が終わつたならば加熱装置4の型枠からコンク 交換器により熱せられた温水を前記複数の型枠に 30 リート版を取出し、これに新たな鉄筋と骨材を配 装する一方、鉄筋及び骨材とともに予熱された他 方の加熱装置 6 の型枠内にモルタルグラウトを注 入し、前記とは逆に予熱及びコンクリートの加熱 養生を行う。

> 本発明は上述のように管路をもつて連結した温 水循環系路をもつてコンクリート版の加熱養生と 鉄筋及び骨材を配装した型枠の両方を加熱できる のでコンクリートの養生が良好であり、かつ装置

. 2

4

も簡単で2つの型枠を交互に使用することができるため、工事現場に設置して多量のコンクリート版を製造することができる有利な方法である。 特許請求の範囲

1 ポイラー及び熱交換器とを付設した温水蓄留 5 タンクの温水循環系路中に、温水を同時に循環供 給すべく複数の型枠加熱装置を並行に配設し、こ れ等加熱装置を型枠及び骨材等の予熱とコンクリ ート加熱養生の両方に交互して用いることができるよう構成したことを特徴とするコンクリート版の温水加熱養生装置。

引用文献

特 公 昭38-6278

